〒954-0052
見附市学校町２－７－９
電話／Fax　0258-62-2343
E-mailmrisen@mitsuke-ngt.ed.jp

令和４年８月１９日 NO.５

イングリッシュガーデン

「 情報ベクトル論 」

教育センター嘱託指導主事　早田　秀夫

内外教育第 6992 号のラウンジに次のような記事が載っていたので少し紹介する。総務省の情報通信白書（2020 年版）によれば，「膨大な情報の中から受け取った情報が，正確な情報であるかを見極める姿勢が個々人に求められている」とある。

例えば，新型コロナウイルスについて正確な情報を見極めているだろうか。マスクの必要性やワクチンの効果，イベント等の人数制限などなど…。本当のところは，何一つ分かっていないのではないかというものである。

確かに，大多数の人がやっていれば，「ま，間違いないだろう。」と思い込んでしまいがちだ。自分自身，外出する際にはマスクをしっかり着用する方だ。しかし，確固たる事実に基づいてマスクを着用している訳ではない。いわゆるマスク警察ににらまれたり，周囲から後ろ指さされたりしたくないための方が大きい。

ところで，私が勝手に命名して使っている言葉に，「情報ベクトル論」というものがある。もちろんベクトルとは，空間における，大きさと向きを持った量のことである。これは，私の大好きな小説『銀河英雄伝説』（著者：田中芳樹）の中で書かれているところから，得たものである。その内容は，「世の中に飛び交っている情報には必ずベクトルがかかっている。つまり誘導しようとしていたり，願望が含まれていたり，その情報の発信者の利益を図る方向性が付加されている。それを差し引いてみればより本当の事実関係に近いものが見えてくる。」というものである。

私たちは今，氾濫する情報の海で溺れかかっている。「コロナウイルス」や「ウクライナ問題」，「フェイクニュース」に「ネットいじめ」etc. 問題は山積みである。

このようなときこそ，その情報にかかっているベクトルを考え，どこへ向かわせたいかを見つけられるようになりたいものである。もちろん，一朝一夕にはいかないと思うが，少しずつでも「考える」ことから始めていきたいと思う。

そして，私たち大人だけではなく，子どもたちも巻き込んで，一日も早く「みんながやっている…」「みんなが言っている…。」から卒業したい。

巻頭写真に寄せて　「イングリッシュガーデン」

◇英国式庭園は，辞書には「自然の景観美を追求した，広大な苑池から構成される自然風景式庭園を指す」と，載っている。そして，『みつけイングリッシュガーデン』も，辞書のように，庭園の中央部に広い苑池（右写真）があり，回廊の周りの花壇は，バラを中心に季節の花で埋め尽くされていると私の頭にインプットされている。

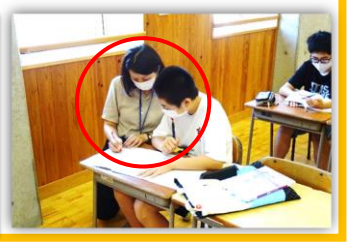
　ところが，８月号の「広報みつけ」の表紙を見て驚いてしまった。色とりどりのビニール傘が花のように設置をされ，流行りの「映えスポット」のようになっているではないか。

◇「イングリッシュガーデンが，自然の景観美と相反する造形美でいいのだろうか」との思いを抱いて出かけてみた。この日は曇り空であったが，とても暑い一日であった。汗を拭きながら入口へ到着。入口に飾られたビニール傘（右中写真）を見て，ちょっと違和感を覚えながら中に入ると，お盆前の昼過ぎにもかかわらず，何組もの家族連れで賑わっていた。苑池に上がる噴水を見て，清涼感を得て「広報みつけ」の写真の場所へ。そこには，家族連れが写真を取り合っていた。さらに前方のバラの木が棚になっている場所に大小のビニール玉のオブジェが飾られ，子どもたちが盛んに写真を撮っていた。（巻頭写真）その姿が実に楽しそうで，硬い頭の私も「写真映えするスポットの設置もありだな」と思えた。「サマーディスプレイ」と銘打った設置は，8 月 21 日（日）まで行われる。見に行かれましたか。

コラム　＝夏休みに開催の「市教育委員会主催事業」を知っていますか ＝

◇右写真を見てください。これは 8 月 3 日 4 日 5 日に開催をされた「みつけ　わかる・できる実感塾」今町小学校会場午前の小学校の部の様子です。実感塾は以前，国語と算数・数学の二教科実施でしたが，現在は算数・数学のみを行っています。写真でわかるように，この日の参加児童が 13 名，学習支援員が 4 名（黄色〇印）。午後の中学校の部は参加生徒が 4 名，学習支援員が 2 名でした。（下写真右 2 枚が中学校の部）参加は，一日参加や二日参加もいましたが，三日間参加が多かったです。学習支援員は退職教員や教育補助員等で，一人ひとりに寄り添う支援が行われました。特に，下写真の赤〇印の学習支援員を見てください。生徒の脇でひざまずき，支援をしていました。各人のペースで学習を進め，わからなければ教えるプロから支援をもらえます。実感塾に，もっと多くの人に参加をして欲しいものです。

◇実感塾と同じく夏休み中に「わくわく体験塾」が行われています。新潟日報に「児童が直接市長に意見　見附で『ふれあい懇談会』」という記事が載りました。この懇談会も「わくわく体験塾」の一環です。今夏の講座数が 132 講座で参加総数が 1,851 名です。各種ものづくり体験やスポーツ体験等，様々あり夏休みにしか出来ないものが多いです。実感塾・体験塾とも，先生方がその内容を理解し児童生徒に紹介して頂けると意欲的な参加になると思います。（こ）



４時から夢塾　　「一人一台端末を活用した学習改善・・」

相澤 将貴 先生

第５回は７月５日(水)に，新潟大学附属長岡小学校の相澤将貴先生から「タブレット端末活用」の指導を頂いた。内容を簡単に紹介する。

１　はじめに

講座案内で「タブレット端末を活用した授業が，なかなか進められていない人向けに行います。実際にタブレット端末を使って楽しく学べる研修です‥」の呼びかけ効果か，８０名を超える希望者があり，多くの方に辞退をして頂き，６８名の参加で開催をした。

２　講座の様子

ミライシード研修を，二人一組でタブレット端末を使って行った。最初に「ログインの仕方」を学んだ後，協働学習(オクリンク)で，『クルーザー(物語)』で登場人物の順位づけを考えた。

相澤先生から全体指導や机間を回って個人への対応等，細やかな指導を頂いた。また参加者の中に堪能な方もおり，その人も指導者になり，さながら教室での授業のような講座になった。

３　まとめ

最後に，各組の順位づけを大画面モニターに映し，「どうしてそう考えたか」を発表し合い，考えあった。タブレット端末の即時性や可視性等を学ぶ研修になった。

＜参加者の声＞

・授業における端末活用のメリットがわかり，効果的に活用する方法を考えることができた。
・具体例もあり大変参考になった。特に，オクリンクで色分けをすることは見やすいと感じた。
・オクリンクは経験がなく勉強になった。それぞれの考えがすぐに理解・共有できるのは良い。
・オクリンクを使って，生徒の意見を可視化する使い方をしたことがなく，ぜひやってみたい。
・平易さ・即時性・保存性・可視性の端末のメリットを考え，積極的に使っていきたい。
・苦手意識があったが，「協働・できるところから」の言葉でハードルが下がったと感じた。
・オクリンクを活用することで，意見が表出し易くなったり，全体の様子が見えるかできる。
・話し易いテーマを基に，デジタルデータを使った授業の改善を，分かり易く教えて頂いた。
・オクリンクの順位づけは，面白い使い方だと参考になった。夏休みにもう少し勉強をしたい。
・オクリンクを小学校にも入れて欲しい。入ったならば，たくさん活用ができると思う。
・参考になったが，見附市でオクリンクが使えないため，実践につながらないことが残念だ。
・クラスルームなど，ミライシード以外の使い方の研修があったら，また受講してみたい。
・タブレット端末活用の知識がまだ足りないので，このような研修がもっとあると嬉しい。

４時から夢塾　「不登校の子どもの声が聞こえていますか」

吉沢嘉一郎先生

第６回は７月１４日(水)に，心と学びの相談・支援センター代表の吉沢嘉一郎先生から表題の演題で指導を頂いた。指導内容を紹介する。

１　はじめに・・不登校，不登校傾向の子どもへの上手な対応

〇上手な対応に必要なこと‥「寄り添うこと」を大切な構えとしている。

〇寄り添うための「具体的な１０項目」

① 子どもの良さを認める　② 約束を守る　③ 良さに感服する　④ 教師の目線ではなく同じ人間としての目線で話す　⑤ 子どもの身体全体の雰囲気を感じ取る　⑥ 穏かな笑顔で接する　⑦ 一人よがりにならない　⑧ 子どもを複数の目で見とる　⑨ 子どもの目はすべてを語る　⑩ 子どもと遊び，笑うなど一緒に活動をする

２　支援センターで対応した事例の紹介・・印象に残ったことを記す

(1)大規模校から小規模校へ転校した小２：Ｏ児

〇当時の担任‥勝手な行動で，きまりを破る子→困った子ととらえる。

〇５年生の担任‥良い点を見つけてどんどん褒めた→立派な５年生に変身していった。

同じ人間として，子どもを認めてやると良い→「人間理解」が大切。

(2)小２で「からかい」のいじめから３年半不登校になった小６：Ｒ児

〇中学進学への準備‥６年担任がどう変えてやればよいか相談に来た。

〇母親は中学進学に当たり‥Ｒ児の国語の読みと英語の自己紹介に不安

→事前に連絡→予習をすることで安心。一日も休まずに登校できた。

〇中学の対応‥母子の願いを聞き入れ，子どもに寄り添ってくれ，不安に対応をしてくれた。

(3)部活に対する強い願いを持つ中２：Ｆ生

〇部活動の進め方に馴染めず，生活が崩れ別室登校になった。

→本当の願いはどこにあるのかを理解し，寄り添うことが大切。

言葉で語ってくれるようになる。部活も学習も頑張る姿になる。

３　まとめとして

〇私が「守ってやるよ」の覚悟が伝われば，変わっていく。校長・担任の覚悟を伝えること。

〇しっかり支えられた子は，中学(高校)になって変わっていく。相手を思いやれる子になる。

＜参加者の声＞

・授業で事前に予告をするということに共感できた。本校でも練習・準備がしっかりできないと不安な生徒がいる。「事前に予告をする」と安心をすると思う。実践していきたい。

・答えを言葉で求めるのではなく，「子どもの全体から受け取ることが大切」が印象に残った。

・「目の前の子どもに寄り添う」基本の心構えが分かったが，どう実践しようか迷っている。

・自校の子どもを想起しながら拝聴した。校長としての寄り添い方，担任を入れた組織的な寄り添い方等，今後の策を考える良い機会になった。覚悟が伝われば変われるを大切にしたい。

8月

科学教育部

≪今月の1枚≫「ヒラメ」
上越市立水族博物館にて

【夏休み以降の科学教育部の活動】

児童生徒が夏休みの科学のものづくりや研究の成果を発表する場として，「夏休み作品展」「科学研究発表会」を開催します。感染症拡大防止対策をした上で実施します。多くの児童生徒が，自信をもって発表ができる場となることを願っています。各校の理科主任の先生を中心として申し込みをお願いします。

「見附市児童生徒夏休み作品展」 会　場：ネーブルみつけ	９月２４日（土）～ ２５日（日） 9:30～16:30	児童生徒が，夏休み中に作り上げた科学工作や観察記録，標本などを展示し，広く紹介する場となります。多くの応募をお待ちしています。 ※9月7日　締め切り
「見附市児童生徒科学研究発表会」 会　場：見附市中央公民館	１０月６日(木) 14:15～16:20	児童生徒が，身近な自然や日常の事物・現象について研究したことを発表する場です。特に優れた作品を新潟県科学研究発表会(いきいきわくわく科学賞２０２２）に推薦します。 ※9月7日　締め切り

第３回理科主任会	9月１５日（木） 15:40～16:40	「作品展」「科学研究発表会」の打ち合わせをします・感染症対策についても確認しますのでご参加をお願いします。 ※科学研究発表会要項２００部搬入　締め切り

中３「化学変化とイオン」	８月２５日（木）　15:40～16:40
生活「動くおもちゃづくり」	９月２０日（火）　15:40～16:40
小４「自然の中の水」	９月２９日（木）　15:40～16:40

科学の公園

ヒラメについて

先日、上越市立水族博物館うみがたりへ行って来ました。タイミングが合わずにドルフィンパフォーマンスを見ることはできませんでした。しかし、屋外にタッチングプールがあり、ヒラメの餌付けを見学することができました。（現在、タッチングプールは感染症対策のため、魚に触れることはできません。）

タッチングプールにヒラメがいることを知りませんでしたので大興奮。餌は解凍したアジでした。ヒラメは、砂にもぐったままアジを目で追っていました。次の瞬間、大きな口を開けバクッとかぶりつき、ムシャムシャと食べていました。

ヒラメは、80cm 級が２匹、50cm 級が１匹と巨大でした。しかし、ほとんど動かないため１年間何も食べずに過ごすこともあるそうです。それだけではなく、ヒラメは嫌なことがあると餌を食べなくなるそうです。３匹のうちの１匹は、飼育員さんに誤って踏まれ、それから３ヶ月もの間、餌を食べなかったそうです。

また、タッチングプールには、カレイが２匹いました。飼育員さんに、砂に埋まっているエリアを限定していただき、ようやく見つけることができました。ヒラメ同様、砂の中から目だけを出して、周囲の様子をうかがっていました。

飼育員さんに、質問してみました。「ヒラメとカレイは同じカレイ目に属していますが、どちらが先に地球上に現れたのか。」という内容です。飼育員さんによると、「国内外の論文を読んでも、どちらが先に地球上に現れたかはわかっていません。」ヒラメとカレイは同じ目ですが、どのように進化してきたかはわかっていないそうです。

ヒラメとカレイの違いについて

ヒラメとカレイは同じカレイ目に属する魚なので、色や形がとてもよく似ています。どちらも平べったい葉のような形をしており、左右対称ではなく目が片方に寄っているという、魚なのです。これら二つの簡単な見分け方に「左ヒラメ、右カレイ」という言葉があります。目を上にして置いたときに左向きになるのがヒラメ、右向きになるのがカレイになります。ところが例外も多く、日本近海の「ヌマガレイ」はほとんどが左向きであったり、ヒラメの仲間にも「メガレイ」や「テンジクガレイ」と呼ばれる種類があったりと、顔の向きだけでは見分けられないこともあるのです。顔の向き以外に「口の形」でカレイとヒラメを見分けることもできます。これらは食べるエサが異なるため、口が違う形に発達しているのです。ヒラメは海底に身を潜め、近づいてきたイワシやアジなどの小魚を瞬時に襲って捕食するため、口がとても大きくて歯が生え揃っています。一方、カレイは自らエサを襲って捕食することはなく、ゴカイやエビなどの小さな生き物を主食としています。

参考　https://www.kurashiru.com/articles/74630160-ddfd-40f0-8bed-5b64369c0770